

彼岸まで

2025年8月28日から9月23日

野中健司



8月28日14時ごろ 二入り川では水草が繁茂し、ミズアオイが咲き、豊かなビオトープを成していた



8月28日14時半ごろ、新久田道沿いのホッツケ田の水田は、稲刈りまじかである。



8月28日 新久田道のススキは既に見ごろを過ぎていた。

十五夜の頃には、ススキ穂は枯れて月見の花材には使えないかと危惧する。



8月28日 相の谷橋の手前から御所沼を望む



2月28日 孔雀小屋前の池を覗く。

抽象画かとも見まがうようかと、鮮やかな緑色の藻が繁茂していた。



8月28日15時ごろ暑いので中山の泉に足をしたし涼をとる。

富士見塚では、暑さの中でも子供たちは元気に走りまわっていた。



9月7日17時頃

暑さを避けて日が傾く頃に公園に行った。管理棟から御所沼を眺める。

だが、陽はまだ高い。まぶしい光に向かってシャッターを切る。レンズのハレーションは虹色に輝く。



9月7日 17時30分ごろ 天神橋の周りは背丈の高い草で覆われていた。

今年の夏は酷暑のため、草刈り作業は、シルバーさんたちの熱中症に配慮して午前中のみの作業としたとのこと。

災害のようなこの夏の酷暑がつくった景色である。



9月7日 17時30 コブシ野から御所沼を望む。傾きかけた陽が湖面に反射してまぶしい



9月23日11時30分ごろ、彼岸の中日である今日は28度程度であろうか、過ごしやすい。

彼岸の中日である。公園の彼岸花を見に来た。桃林の中には、ぽつぽつと彼岸花が咲いていた。

まだ満開ではないが、すでに見ごろである。





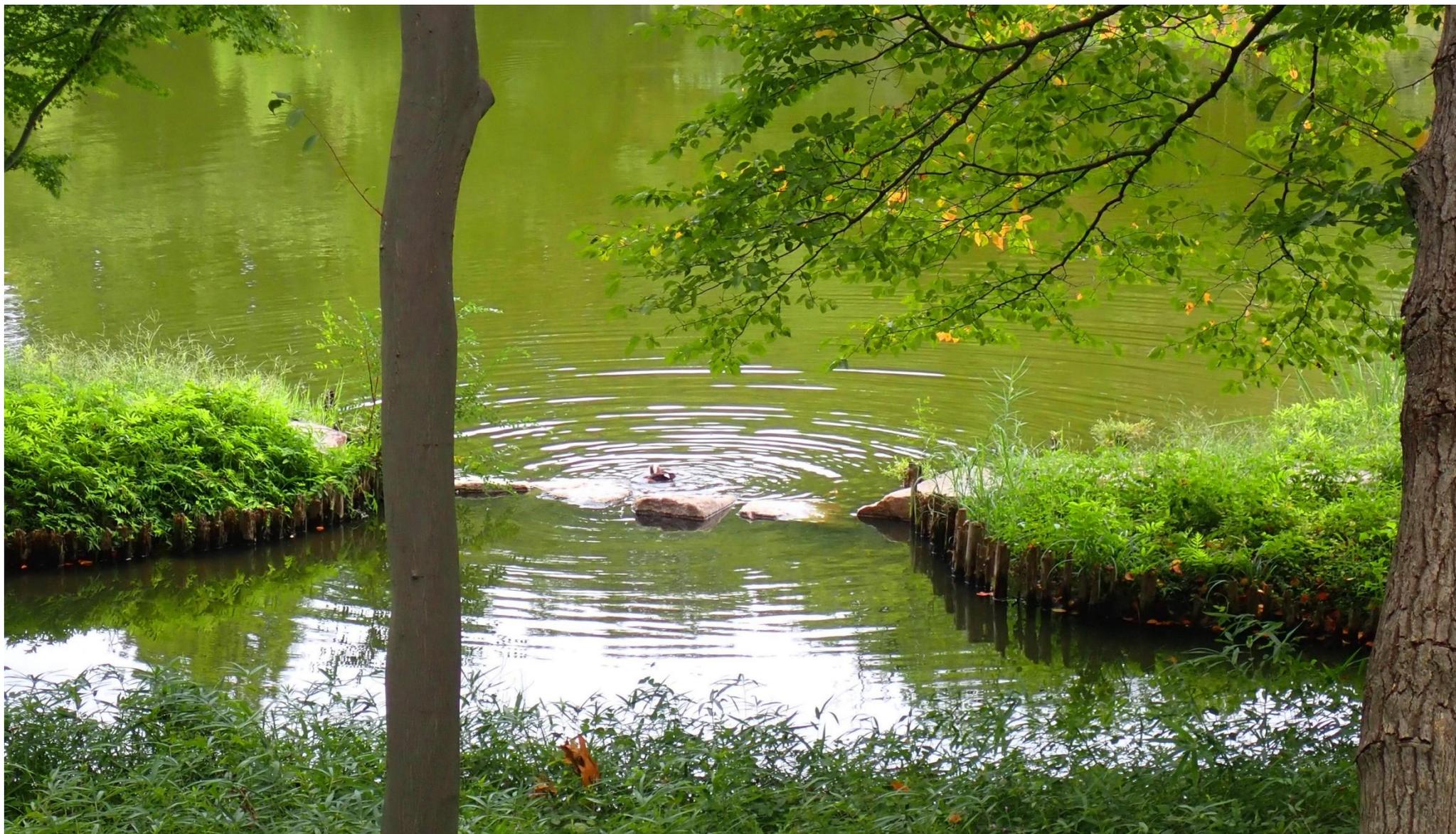
虚空蔵堂の道際に白い彼岸花が咲いていた。珍しいので写真に納めた。



目洗弁天池の周りの彼岸花は見事である。しかし、今年の夏は、彼岸の入りでも猛暑、8月には40度超える日もあったが、35度を超えの酷暑続き、そのためか、日陰のない場所の彼岸花は遅れ気味のようだ。4, 5日たてば見ごろになるか？



9月23日「公方様の森」際には向日葵に似た黄色い花が咲いていた。



9月23日 「公方様の森」の中から御所沼を覗く。カルガモ？がさかんに波紋をたてていた。

木々の緑で染められた湖面に広がる波紋が印象に残った



天神橋から「まくらが浜」を眺める。気のせいか、空気感も秋めいてきたようだ。



9月23日 今日、涼しい日和で、休日とのこともあり、公園を散策する人がかなりいた
夏草は、酷暑もなんのその、繁茂するその生命力には憧れすら覚える。



新久田道のススキの穂は盛りを過ぎており、しなやかな輝きはすでに失われていた。



ススキに紛れて萩の花に似たアレチヌスビトハギが可憐に咲いていた



ホツツケ田は稲刈りも済み、稲穂が稲架にかけてあった。
また、カモなどの鳥に食べられないようにネット掛けされていた。



新久田道を歩いていると、大型犬を6匹も連れた人に遭遇する



「すみれ坂」沿いに山栗がなっていた。収穫にはまだ早い。



9月23日12時半ごろ 管理棟から富士見塚方面を望む。